Title	持続可能な開発目標(SDGs)と札幌市の取組
Author(s)	佐竹,輝洋
Citation	北海道大学環境健康科学研究教育センター主催 WHO環境化学物質による健康障害の予防に関する研究協力センター指定3周年記念 市民講演会 「SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~」2018年10月17日(水)開催 (北海道大学百年記念会館大会議室)
Issue Date	2018-10-17
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/71697
Туре	lecture
File Information	satake.pdf



Instructions for use





2018.10.17 WHO環境化学物質による健康障害の予防に関する研究協力センター 指定三周年記念 市民講演会「SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~

持続可能な開発目標(SDGs)と札幌市の取組

札幌市 環境局 環境都市推進部 環境計画課 調査担当係長 佐竹 輝洋







i.**:

-0











(ĝ)









2015年の9月に国連で採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための 2030アジェンダ (Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development) 」 における、17の目標と169のターゲットからなる、2030年に向けた国連加盟国193カ国 共通の目標。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT

世界を変えるための17の目標































最近、地球が何だかおかしいな、と思いませんか?



世界の 人口増加 貧富の 格差拡大





貧困率の年次推移(国民生活基礎調査より) 18.0% 15.7% 16.0% 16.1% 15.3% _{14.9%} 16.0% 14.6% 16.3% 13.2% 13.5% 13.7% 14.0% 13.7% 14.2% 12.0% 12.0% 12.9% 12.8% 12.1% → 相対的貧困率 10.0% 10.9% 子どもの貧困率 8.0%

現代は、次世代に地球・豊かな生活を残していくための最後のチャンス!

SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~

2030年に向けた、持続可能な社会をつくるための17の目標

3 Page

資料:環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標 とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

出典:平成29年度環境白書(環境省)

理念「誰一人取り残さない(取り残されない)」 No one will be left behind

「働きがい・経済成長」 「産業と技術革新の基盤づくり」

「貧困」や「飢餓」をなくす。 「健康・福祉」や「教育」を全ての人に。 「ジェンダー平等」「持続可能なまちづくり」

「安全な水」「陸」「海」の保全。 「クリーンエネルギー」「気候変動対策」 「つくる責任、つかう責任」

持続可能な社会をつくるため、全ての主体が取り組む目標!

世界の目標は遠い話?





ターゲット12.3

2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食品の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。

世界で廃棄されている食品

日本で廃棄されている食品

札幌の家庭で 廃棄されている食品

年間約13億トン

年間約2842万トン (2015年) うち、食品ロスは約646万トン 家庭ごみの中の食品ロス 年間約2万トン (2016年)

全世界の食品の約3分の1が廃棄

国連世界食糧計画 (WFP) の 途上国への食糧援助量 約320万トン (2015年) の倍

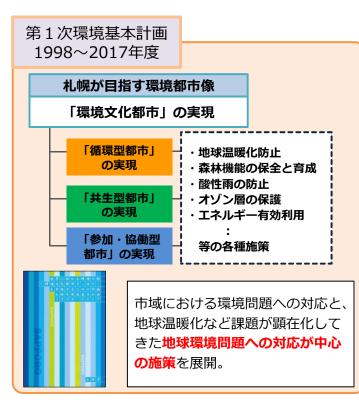
4人家族では <mark>約40kg、約2万3000円分</mark> もの食品をムダにしていることに

世界が抱える問題の多くは身近な生活とつながっている。→札幌市の取組も重要

SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~

次世代につなぐ環境首都・SAPP ROビジョン(第2次札幌市環境基本計画)

5 Page





これまで、諸問題に対し個別に対応してきた「環境対策」から、 環境・経済・社会に対する波及効果を同時に達成を目指すこととした

SDGsの特徴②(同時解決)





燃やすゴミが 減って温暖化 対策になる



経済

食べ物をつくる人も つくりがいがある



同時達成

環境

食品を必要以外に つくりすぎない



食べる人も 責任をもつ



食べ残しを減らすために

社会

社会

貧しい人の

助けになる

他の

必要な知識 や技能を 学ぶ



(((

効果

資源利用の効率を上げる クリーン技術の進歩



みんなで 共同で 取り組む



SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~

「第2次札幌市環境基本計画」で目指す将来像と実現に向けた5つの柱



札幌が目指す将来像(2050年頃の姿)

次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市 「環境首都・SAPP」RO」

第4章 将来像を実現するための5つの柱

各柱ごとに2030年の姿と施策の方向を設定

①健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現

②積雪寒冷地 に適した 低炭素社会 の実現 ③資源を持続可能に活用する 循環型社会 の実現 ④都市と自然が 調和した 自然共生社会 の実現

⑤環境施策の横断的・総合的な取組の推進

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図



資料:環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標 とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

出典:平成29年度環境白書(環境省)

SDGsを踏まえた指標設定



5つの施策の柱ごとにSDGsを踏まえた管理指標を設定

(2) 将来像の実現に向けた2030年の姿(長期的な目標)と管理指標

市民・事業者が、地球温暖化の現状や省エネルギー・再生可能エネルギー促進の重要性を認識し、取組を 実践している都市を目指します。具体的には、暖房エネルギーの削減や公共交通機関への利用促進といっ た家庭、業務、運輸部門での温暖化対策を積極的に進め、市内の温室効果ガス排出量の大幅な削減を目指 します。

- ・札幌市内から排出される温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減(2015年度は34%増加)
- ・札幌市内の電力消費量のうち、再生可能エネルギー消費量を30%に(2015年度は8.0%)

◆関連する SDGs

- ターゲット7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
- ターゲット7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。
- ターゲット13.2 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。
- ターゲット13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~

第2次札幌市環境基本計画とSDGsとの関係

9 Page

◆ SDGs と5本の柱との関連

5本の柱		4 sources	6 83985540	7 SERF-BAREC	8 #### AM	9 #####	11 :000000 ABA	12 ::::::	13 11111111	14 *::*****	15 #0!*** <u>\$\dar{\alpha} \sigma</u>	17 ::::::::::::::::::::::::::::::::::::
		教育	水	Iネルキ゚-	経済 成長	産業・技 術革新	まち づくり	生産・ 消費責任	気候 変動	海洋 資源	陸域 生態系	パ -トナ- シップ
○健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現												
①良好な大気、水、土壌その他の環境の確保	0		0				0	0		0	0	
②積雪寒冷な地域特性も踏まえた気候変動に対する 適応対策			0	0		0	0		0			
○積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現		•		-								
①徹底した省エネルギー対策の推進				0		0	0	0	0		0	
②再生可能エネルギーの導入拡大				0		0	0	0	0		0	
③水素エネルギーの活用				0		0	0	0	0			
○資源を持続可能に活用する循環型社会の実現												
①廃棄物のさらなる減量に向けた2Rの推進	0		0		0		0	0	0	0		
②資源を有効に活用するリサイクルや廃棄物の適正処理	0		0		0		0	0	0	0		
③災害廃棄物の対策や自治体間での連携						0	0	0				
○都市と自然が調和した自然共生社会の実現	-37							0				
①生物多様性の保全	0		0			0	0	0	0	0	0	
②水やみどりの活用、ふれあいの促進	0		0				0				0	
③生物多様性にも配慮した良好な景観の形成			0				0		0		0	
)環境施策の横断的・総合的な取組の推進												
①幅広い世代への環境教育・学習の推進		0			0	0	0	0	0		0	0
②環境側面からの経済振興		0		0	0	0	0	0	0		0	0
③環境保全活動を通じたコミュニティの活性化の推進		0	0				0	0	0		0	0
④道内連携、様々な主体との連携の推進		0					0	0	0		0	0

札幌版次世代住宅基準[2012年~]



○高断熱・高気密な住宅に対し、国の省エネ基準を上回る基準を独自に設定し、認定を行っている ほか、ベーシックレベル以上の住宅には補助制度も実施し、普及を図っている。

※その他、太陽光発電やエネファームなどにも補助制度を実施

新築住宅の等級	補助金額	外皮平均熱還流率	一次エネル	相当隙間面積	
WISE GOOTIN	110 247 MZ BX	(UA値)[W/㎡・K] 全体		暖房+換気	(C値)[cៅ/㎡]
トップランナー	200万円/件	0.18以下		35%以下	0.5以下
ハイレベル	150万円/件	0.22以下	等級5	45%以下	0.56
スタンダードレベル	80万円/件	0.28以下	子がひ	60%以下	1.0以下
ベーシックレベル	30万円/件	0.36以下		75%以下	1.00
ミニマムレベル	無し	0.46以下	等級4	90%以下	1.0以下

→国の省エネ基準をミニマムレベルに設定

暖房エネルギー削減量

年間の灯油使用量 (特定の条件での参考値)















市内で建築される新築戸建住宅に占める ベーシックレベル以上の割合

→ 53.8% (2016年度)

2012年度→2015年度

家庭部門のCO2排出量: 12.4%減

※2012年度507万t-CO2→2015年度444万t-CO2

SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~

持続可能な消費形態の確保を通じた、北海道内の経済循環に向けた取組



SDGsの目標11「住みつづけられるまちづくりを」、12「つくる責任 つかう責任」などをテーマとし、北 海道における資源やエネルギーの循環について「エシカル消費」や「フェアトレード」の視点から考える ワークショップを、下川町と連携して開催。



【開催日時】2017年10月27日(金)7:30-20:00 【場所】下川町まちおこしセンター「コモレビ」 【講師】

- ・一般社団法人エシカル協会代表理事 末吉 里花 氏
- ·神谷町光明寺僧侶 松本 紹圭 氏

【札幌からの参加者】

エシカル消費やフェアトレードに取り組む市民団体、 札幌市消費者協会等と下川町を訪れ、実施。





今後は、地域循環共生圏の創造に 資する取組に繋げていきたい。

SDGs未来都市への選定



自治体によるSDGsの達成に向けた取組を公募し、優れた取組を提案 する都市を「SDGs未来都市」として全国から選定するもので、内閣府 が今年初めて実施する制度。

2018年6月15日、全国29都市が「SDGs未来都市」として選定され、 札幌市もその1つに選ばれた。



出典: 国土地理院ウェブサイト (https://maps.gsi.go.jp/) の白地図をもとに作成

0.0%

SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~

40.0%

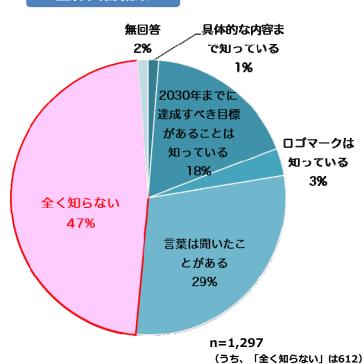
札幌市民のSDGsの認知度



60.0%

○SDGsの札幌市民認知度を確認するため、市民アンケートを実施(2018年1月22日〜2月9日、郵送)。

全体回答結果

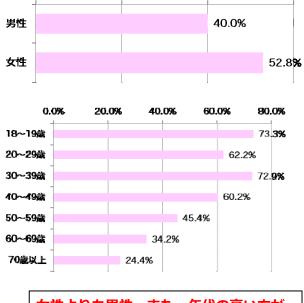


「全く知らない」と答えた人の割合

20.0%

北海道

北海道札.幌市



女性よりも男性、また、年代の高い方が SDGsに関する認知度が高い傾向

各種啓発物へのSDGsロゴの活用



省エネな賃貸住宅の選び方・住まい方マニュアル

エコドライブ普及パンフレット



制作:第10次札纳市環境保全協議会 行:札城市環境場環境都市推進部環境計画課 〒060-8611 札梯市中央区北1条西27日 TEL 011-211-2877 FAX 011-218-5108





札幌市出前講座 資料

パートナーシップによる普及













持続可能な国・まちになることの波及効果





SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~



ご清聴ありがとうございました

質問・要望等は↓までご連絡ください。

札幌市環境局環境都市推進部環境計画課(北1条西2丁目)

TEL: 011-211-2877

Mali: kan.suishin@city.sapporo.jp